教科目名　音　　楽　(Music)

学科名・学年　：全学科　1年
単位数など　：選択必修　1単位　（前期1コマ，学習保証時間21時間）
担当教員　：五　嶋　　和　子

授業の概要
いろいろな演奏の体験やＣＤ、ビデオ等の鑑賞を通して、楽典の基礎知識を身につけ、音楽の楽しさを知る．

達成目標と評価方法	大分高専目標(A1)
(1) 楽典の基礎知識を理解し、それを自分の演奏に生かすことができる（定期試験と演奏発表） (2) いろいろな音楽形態があることを知り、実際に演奏を体験する（演奏発表） (3) 演奏を通じて友人とのコミュニケーションを深め音楽を楽しむ（演奏発表） (4) 国、ジャンルによる音楽の違いにふれ、国際的な広い視野をもつ（感想文）	

回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5	楽典（音楽の基礎知識） 校歌 合唱 楽器演奏	・ 楽譜の読み方を理解し、校歌やその他の楽曲を歌ったり、楽器（ピアノ、ギターその他）を演奏したりする．	【理解の度合い】
6 7 8	ＣＤ、ビデオ鑑賞	・ いろいろなジャンル、国や地域、また時代による音楽の違いをＣＤやビデオの鑑賞又は実際の演奏によって理解する．	【理解の度合い】
9 10 11 12 13	クラスコンサートの練習・発表	・ クラスコンサートに向けて自分の決めた形態での演奏を練習する．それを通して友人とのコミュニケーションを深めまた音楽を聴いたり体験する喜びを知る．	【理解の度合い】
14	前期期末試験		【試験の点数】　　点
	前期期末試験の解答と解説		

履修上の注意	演奏の体験や鑑賞を通して、人類共通のものとしての音楽に親しみ、自分で表現する喜びを知り、人へのいたわりの気持ちをもつよう指導する．	【総合達成度】
教科書	教育芸術社「高校生の音楽Ｉ」	
参考図書		
関連科目		
総合評価	最終成績＝0.4×（定期試験成績）＋0.4×（クラスコンサートの評価）＋0.2×（鑑賞の感想文の評価）	【総合評価】　　点

教科目名　書　　道　(Calligraphy)

学科名・学年　：全学科　１年
単位数など　：選択必修　１単位　（前期１コマ，学習保証時間 19.5 時間）
担当教員　：加藤　真知子

授業の概要
古典の臨書を通して、自己改革をめざし、自己表現を確立する。

達成目標と評価方法	大分高専目標(A1)
(1) 書写から書道芸術への開眼をめざす（印刻を学ぶ） (2) 芸術をとおして、豊かな心を育成（感想文並びに授業態度） (3) 美意識を認識し、芸術を鑑賞する心を培う（拓本研究と条幅の鑑賞）	

回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	書道の変遷と書道概論	・ 文房の取り扱い方、諸注意	【理解の度合い】
2		・ 移りゆく書の変遷の理解	
3	楷書法 市美術展覧会鑑賞	・ 「孔子廟堂・建中告身帖・雁塔聖教序」臨書	【理解の度合い】
4	拓本研究	・ 書以外の美術鑑賞も高める	
5	印刻	・ 拓本を紹介し、研究	
6		・ 自分の名前を印に彫り、印床に写す	
7	行書法	・	
8		・ 「蘭　亭　叙」全臨	【理解の度合い】
9	条幅作品製作	・ 「争座位稿」	
10		・ 臨書から創作へと発展させ自己創作	
11		（印を押し、仮巻に仕上げる）	
12	年賀状作成のポイント	・ 干支を導入した書表現	
13	鑑賞	・ 感想を書く	

履修上の注意	書道文房並びに片付け、責任ある態度を培う	【総合達成度】
教　科　書	書１（光村図書）	
参考図書	古典の法帖、拓本、資料プリント	
関連科目	漢文、古典を学ぶ	
総合評価	毎時提出した課題×０．５＋０．２×（文房の用意、片付け）＋０．３×（条幅作品、感想文）	【総合評価】　　点

教科目名　美　　術　(Fine　Art)

学科名・学年　：全学科　１年
単位数など　：選択必修　１単位　（前期１コマ，学習保証時間　19.5 時間）
担当教員　：足　利　　桂　子

授業の概要
人間には、美的感性にあふれた創意と、それを表現したいと思う気持ちが本能的に備わっている.自らの手を通し考え、想像し、構成し、感動を持ち創り出す活動の中で全人的な創造力や感性を高めることを目標とする。

達成目標と評価方法	大分高専目標(A1)
(1) 表現する行為を重点に創意的、独創でセンスにあふれた表現の喜びを知る。（課題作品） (2) 自己の表現に没頭し、自分が発見した方法で限りない夢を表現しようと試みる。（課題作品） (3) 美術に親しみ、愛する心を身につける。（演習プリントと鑑賞レポート）	

回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1 2	第1章　形の表現 1.1 透視図法 1.2 すべてが９０°でつながる立体 1.3 斜面、曲面をもつ立体 1.4 陰影	・一点透視、二点透視図法を理解し、立方体が描ける ・立体的な斜面、曲面が描ける ・陰影を付け立体感を出すことができる	【理解の度合い】
	作品提出		【作品の点数】　　点
3 4	1.5 透視図法を使った立体的な空間表現	・創造的な形の工夫ができる ・前後、左右、上下、大小等全体のバランスが取れる ・陰影を付け立体感を出すことができる	
	作品提出		【作品の点数】　　点
5 6 7	1.6 石膏像のある静物デッサン	・モデル（対象）の大づかみな形の理解ができる ・形を面でとらえ、明暗の調子を見、陰影を付けることができる ・最後までモデルを見つめ、完成することができる	
	作品提出		【作品の点数】　　点
8 9	第２章　デザイン 2.1 構成と色彩　　構成練習 2.2 構成と色彩　　色彩練習	・ハーモニー(調和)のある構成ができる ・ﾊﾞﾗﾝｽ(釣り合い)のある構成ができる ・リズム(律動)のある構成ができる ・基本的な配色(有彩色と無彩色、色相、明度)ができる ・イメージによる配色(暖色、寒色、派手、地味)ができる ・配色の効果を知る（漸贈、ｾﾊﾟﾚｰﾄ効果）	【理解の度合い】
	作品提出		【作品の点数】　　点
10 11	2.3 専門工学のイメージデザイン	・専門工学のイメージを言葉で表現できる ・専門工学のイメージを自由に表現できる ・言葉のおもしろさ、美しさを考え形を単純化しユニークなパターンを創り出すことができる ・イメージに合う色彩を見つけ完成することができる	
	作品提出		【作品の点数】　　点
12 13	第３章 3.1 現代美術の展覧会を見る	・新しい表現の美術作品に触れ、好きな作品についての感想を記述することができる	

履修上の注意	演習プリント及び課題作品の提出期限を厳守すること 用具の準備、保管には各自十分責任をもつこと	【総合達成度】
教科書		
参考図書	表現の手がかりとなる資料は教師の方で適宜準備する	
関連科目	設計、製図、工業デザイン、建築デザインその他創造性を要する科目	
総合評価	課題作品×0.8＋（演習プリント・鑑賞レポート）×0.2	【総合評価】　　点